

国際ルール変更（2022年3月付）に伴い「第5回チャレンジカップ京都」で施行する新ルールについて

- 注1) 今年度の日本国内で行う競技会（チャレンジカップ京都、記録会、全日本選手権）に関わる部分のみ、JPPF内で抜粋し翻訳した。
 注2) 2022-2024ルール原文：<https://bit.ly/3HRL0gy>
 注3) 新国際ルールも、仮定の部分があるため、今大会のみに適用するルールもあります（国際ルールの浸透・変更とともに、今後進化させていただきます）
 注4) 日本語訳はWPPOより発行予定（時期未定）

特にピックアップすべき変更点について

- ☑ 前日検量の実施、体重は1/10までの計測。
- ☑ チャレンジカップではアップの前にキットチェックの実施と体重チェックあり（出場階級には全く関係しない、体調チェックの意）
- ☑ 切断箇所による体重加算は行わない
- ☑ アップ時間は40分に
- ☑ 同記録の場合のランキングについて：樹立日の早い者が上位。
- ☑ 年齢によるカテゴリー名称の変更
- ☑ 年齢によるカテゴリー登録は自動的に行われる
- ☑ 年齢によるカテゴリー別の試合は行わない。表彰時にカテゴリーごとにメダルが授与される。

年齢カテゴリー	ルーキー	15歳～17歳	※ カレンダーイヤー その年の12/31時点の年齢
	ネクストジェネレーション	18歳～20歳	
	エリート	15歳～上限なし	
	レジェンド	45歳以上	

- ☑ 新記録への挑戦は1 Kg刻みで。（0.5Kg更新の挑戦ができなくなった）
- ☑ チャレンジカップ京都で特別試技（第4試技）に挑戦できるのはエリート部門のみ
- ☑ 特別試技（第4試技）も結果に反映される。
- ☑ **【従来通り】** 特別試技（第4試技）の挑戦は「新記録」を狙う時のみ。ただし、申請は第3試技が終わって、1分以内（1分経過後は受付ない）
- ☑ 失敗の理由の色分けと名称の変更

失敗の理由と色	緑	Body Position Sequence（体の位置）
	青	Down Sequence（バーの下ろし）
	オレンジ	Stop Sequence（バーの静止）
	紫	Press Sequence（バーの挙げ方）

※ つぶれたときは **紫：Press Sequence**

※ 意図的でなくてもバーがラックに当たったときは失敗

以下、国際ルールと日本国内での競技会でのルール適用についての詳細。

セクションB ; WPPOルール		
	新ルール	日本の対応
10 Power Rules		
10.3	体重が1/10までの測定になった。	WPPO通り
11 Age Groups		
11.1	年齢別（カレンダーイヤー）	WPPO通り
	ルーキー（15歳から17歳）	
	ネクストジェネレーション（18歳～20歳）	
	エリート（15歳～制限なし）	
	レジェンド（45歳以上）	

12 Entries		
12.1.1	1クラスの参加人数に制限がなくなった。	国際大会派遣ルールですが、日本では今まで通り1階級2名までとします。
12.1.3	年齢別試合は行わない。一斉に試合を行い、自動的に年齢で振り分ける。従って、エリート部門と年齢別部門の2つの表彰を受ける	WPPO通り
12.2	「ゲーム（パラリンピックやアジパラ）」の他は、エントリー階級より1階級だけ上下できる。階級変更は、100ユーロ必要。変更は、各大会の階級変更手続きに従うこと	チャレンジカップは、検量時にも体重変更が可能
		全日本は体重変更不可。アジパラも、階級変更できない。
12.3	表彰のマイナスワンルールはなくなったが、その階級に選手が1名あるいは2名しかいない時は、その大会の標準を突破していれば表彰される。3名以上は通常通り	チャレンジカップは、標準がないので、全員3位以内に入れれば表彰する。
		全日本は標準があるのでWPPO通り
13 Lot Number		
13.1	ロットナンバーは世界ランキングによって、決まる。そのクラスの世界ランキング1位がロットナンバー1となる。	日本は申し込み順
13.1.3	階級変更して、そのクラスの世界ランキングを持っていない場合は、ランダムにロットナンバーが割り当てられる。	
13.1.4	ロットナンバーはテクニカルミーティング後、全員に割り当てられる。	
13.1.5.1	グループ分けで同重量の場合は、ロットナンバーの大きいものが最初に試合をするグループに入る（グループB）	
13.1.5.2	検量、キットチェックは、ロットナンバーの大きい順に行う。	
13.1.5.3	同重量の試技を選んだ場合は、ロットナンバーの大きい方が先に行う。	WPPO通り（注意！従って、同重量の場合は、今まではロットナンバーの小さい者から試技を行ったが、今後は逆になる。）
13.1.5.4	混合グループ（いくつかの階級を一緒にして試合を行う場合）で同じロットナンバー、同重量申告の者がいた場合は、体重の軽いものが先に試技を行う。	
14 Categories and Groups		
14.1.1と2	表彰は、3位まで授与されるが、MQSに満たない場合は、メダルはもらえない	チャレンジカップは、標準がないので、全員3位以内に入れれば表彰する。
	複数の階級で試合を行う場合は、Coefficient Formula（CF:新しいフォーミュラ）で表彰を行う。	全日本は標準があるのでWPPO通り
14.2.8	選手が5人未満の場合は、ラウンドの最後に3分の猶予を与える。	WPPO通り（注意；今までは、4人だったら1分休み、3人だったら---ではなく、4人になったら、3人でも2人でも3分休み）
14.2.9	グループ分けは検量後に決まる。	WPPO通り
15 Weigh-In		
15.1.3	検量は各階級の競技日の1日前に行う。	WPPO通り
15.1.4	検量はロットナンバーの大きい方から小さい方へ	WPPO通り
15.1.8	試合当日はランダムに検量し、階級の体重を超えた選手は失格。	
注	切断の選手のadd onルールが書かれていない。従って、Add onはなし。	WPPO通り
16 Athlete Uniform and Personal Equipment		
16.1.1	下記のを除き、WPPO公認業者のものを使うこと 下着、靴、靴下、スポーツブラ、スカーフ、ベルト、リストラップ、マウスガード	日本は従来通り。左記は6月から完全施行との事なので、アジアオセアニアではWPPO業者指定のものを使わなければならない。
16.1.2	イヤリング、帽子、腕時計、指輪等は、安全の観点から着用禁止とする。	WPPO通り
16.1.3	最低限ツリバンと靴は履くこと。（Tシャツはどちらでもよい？）	従来通りTシャツ着用
16.5	ユニタードを来ても良い（袖のついたもの、イスラム対策）	従来通り半そでのみ。
16.10	ベルト幅は12cm内	WPPO通り
17 Kit Check		
17.1.2	キットチェックは、アップ場に入る前、または、アップ中に行う	チャレンジカップではアップに入る前に再検量とキットチェックを行います。
17.1.3	キットチェック順は、ロットナンバー大きい者から行う。	WPPO通り
17.1.4	キットチェックをしなかったら、失格となる。	WPPO通り

18 Warm-UP		
18.1.1	センター補助を自国の役員ができるが、アップ場でTDの許可を取ること	日本では連盟の定めた帯同コーチが行う。
18.1.2	アップ場の器具が不足しているときは譲り合って使うこと。譲り合いをしない場合はWPPOまたはTDの裁量でウォームアップパスを取り上げる	WPPO通り
18.2.2	アップ場に入れるのは、IDカードとウォームアップパスを持っている選手と役員のみ	日本ではウォームアップパス等を作っていない
18.2.5	グループが複数ある場合、最初のグループは第一試技を終えたら、コールエリアに入る。(アップ場には戻れない) その後、次のグループがアップに入る。	日本ではコールエリアを設けていない
19 Athlete and Technical Official Introduction		
	IPCゲームとWPPO競技会では、競技開始10分前に整列して舞台上がり、国名と名前が紹介され、全員の紹介が終わったら、舞台から降りる。それ以外の競技会では、5分前に紹介のアナウンスが行われる。	日本では、ウェブサイトの放映状況によって変わる
20 Individual Event		
20.1.8	何らかの理由で競技が中断された場合は、40分間のアップ時間を設けて、競技を続行する。	火事や地震等、特殊な場合のみ
20.2	ラウンドと試技の重量の変更は今までと同じ	
	スタート重量は、競技開始30分前から5分前までに、1回だけ変更できる。	
	ただし、申請重量より10kg以上下げてもならず、10kg以上上げることはできない	
	複数のグループがある場合は、アップ場にはいる競技開始30分前から、試技開始5分前までに1回変更できる。	
22 Chief Referee Commands		
	変更ないが、サイドレフリーは、チーフレフリーのスタートの合図の前に、選手のボディポジションに異論がある場合は手を上げて注意を喚起すること。	WPPO通り
23 Lift Executions		
23.1	Good Liftの状態	
23.1.1.1	Body Position Sequence (Turquoise:トルコ石の色、ここでは緑)	
a)	ベンチ台にあおむけに横たわり、試技の間中、姿勢を保つこと。	
b)	頭、肩、尻、足、踵をベンチにつけたままとする。ただしその位置が変わらない限り震えたり、スライドしても良い。	
c)	ストラップを正しく巻くこと	
d)	バーに指を回してしっかり握ること、親指は他の指とは反対の位置にくること	
e)	手幅は人差し指がバーのマーク (81 cmの印) 以内にあること。	
f)	クラス分けの指示がない限り肘を伸ばす事。	
g)	審判の合図の後に試技を始める事	
23.1.1.2	Down Sequence (Blue ; 青)	
a)	バーをしっかりコントロールして胸に下す。(ドカンと下したり、胸にぶつけるような動作は禁止)	
23.1.1.3	Stop Sequence(Orange;オレンジ色)	
a)	バーを胸につけること。	
b)	胸でバーを止め、沈めることなく、押し上げる動作に移ること	
23.1.1.4	Press Sequence (Purple;紫)	
a)	バーを上げる時に、不自然な体のサポートを受けないこと。(肩や胸の力を借りるような上げ方をしないこと。	
b)	バーをまっすぐ、上方に押すこと	
c)	最後のロックアウトは同時であること。	
d)	審判の合図の後にバーをラックに戻すこと。	
23.1.2	上記で例外がある場合は、クラス分け時に申告すること、各自の障害が、変わったときは、Medical Review Requestをすること。	
23.2	失敗の状態	
	上記に反するとき。	
	バーを押せなかった時(つぶれた時)は、Press Sequenceとなる。	
注	上記以外の失敗の理由	
注	時間内にチーフレフリーのスタートの合図を貰えなかったとき	
注	タイムアウトとなったとき	
注	試技の間に怪我、その他危険な状態で、チーフレフリーが「ラック」の合図を掛けたとき	
注	意図的でなくてもバーがラックに当たったとき	

24 Lift Challenge (抗議)		
24.1.1	IPCゲームとWPPO競技会、その他の公認競技会でLift VRS (ビデオで試技の確認ができるシステム) を使用し、選手の試技が失敗であったときは抗議ができる。	日本では抗議ができない。理由; 陪審員が不在の為
24.1.2	Lift challengeカード (100ユーロ) はテクニカルミーティングで購入すること。	
24.1.4	Lift challengeカードを使わなかったときは、その競技会中に返却すれば返金される。(競技会終了後は返金できない)	
24.1.5	抗議への対応は、WPPOの裁量で、次の2ケースがある	
24.1.6	Jury Challenge Format 試合は中断せず、Jury 1 (陪審員は合計3人) が他の陪審員の判定を見てひとりでも赤判定があった場合は、抗議は却下される。	
24.1.7	Referee Challenge Format 抗議があり、WPPOがこのフォーマットを採用したときは、試合を中断し、審判は、ビデオで今の試技を確認する。 3名全員が白と判定した場合は、抗議が通り、一人でも赤判定とした場合は、抗議は通らない。	
25 Errors on the Field of Play		
25.3	試技前に、ラック高、重量その他に間違いを発見したら、チーフレフリーにスタートの合図の前に注意喚起をする。	WPPO通り
	タイマーは止められ、間違いをただす。その際選手は、FOPに留まり、間違いが修正されたら、そこから2分の持ち時間で試技を行う。	WPPO通り
25.4	試技後に間違いを発見したら、選手がFOPを出る前にチーフレフリーにその旨申しでる。	WPPO通り
	間違いがあれば、選手、役員はFOPから出て、間違いが正されるのを待てる。選手の試技が失敗と判定されていたら、3分間の猶予を持って、続いて再度試技を行う。	WPPO通り
	選手の試技が成功と判定されていたら、申告重量より軽くても、重くてもその重量が記録として残る。	WPPO通り
26 Records		
26.2	ハイブリッド (同日に他の場所でおして試合をする) やWPPO公認競技会 (チャレンジカップや全日本はこちらに当たる) を除き、ドーピングテストが実施され、LiftVRSシステムが導入されている場合のみ、各種新記録が公認される。	日本で認められるのは日本記録のみ。
26.4	一旦新記録が樹立されたら、次の新記録は、最低1kg以上で公認される。	0.5kgの増量はなし、WPPO通り
26.7	新記録は原則3試技の内で樹立できる。樹立できる新記録は、競技会規模によって異なる。	
27 The Power Lift (特別試技)		
27.2	ハイブリッドやWPPO公認競技会 (チャレンジカップや全日本はこちらに当たる) を除き、ドーピングテストが実施され、LiftVRSシステムが導入されている場合のみ、特別試技ができる。 特別試技の適用できる新記録は、競技会規模によって異なる。	日本記録を狙う時のみ特別試技ができる。(ただし、申請は第三試技が終わって、1分以内、それ以上の経過では申請できない。)
27.5	特別試技は、head-to-head(1対1、後述) の後は申請できない。	
27.6	特別試技は、最終結果に反映される	WPPO通り
28 Results		
28.1	個人戦	
28.1.1	ベストリフト 最終結果は、三試技の内の最高重量によって、順位が決まる。ただし特別試技のできる競技会では、この特別試技も結果に反映される。	WPPO通り
28.1.2	トータルリフト 成功試技の合計重量で順位を決める (3試技の内のみ)	
28.1.3	タイブレイク 1位~3位に入る選手が同記録を出した場合、head-to-headで、最終結果を決める。	
28.1.3.1	もし、選手が全員失敗しても、全員成功しても順位は選手全員が同順位となる。	こちらは日本では行わない
28.1.4	Head-to-Head Lift というのは、第三ラウンドに続いて行うもので、1~3位の選手が同記録であった場合、3分間の猶予を持って、同重量で試技を行う。ただし、選手がHead-to-Head試技を行いたくない場合は、TDの承認の下、Head-to-Head Liftを行わず、順位を分ける。	

29 Medal Awards		
29.2	WPPO公認競技会の表彰は、ベストリフトとトータルリフトで表彰を行う。	
29.3	一か国からは2名までしか表彰されない。	
29.5	ワールドカップでは、年齢別競技は行わず、すべての年齢選手と一緒に試合を行い、結果はエリートの部、レジェンドの部、というようにメダルを授与する。	WPPO通り（一斉に試合をして、表彰は、エリートとレジェンドなどとする）
30 Ranking		
30.2	個人ランキングのベストリフトは、階級別に世界、地域、パラリンピックランキングを設ける	日本ランキングを設けて、国際大会選考や、強化指定選手選考等に利用する。
	個人ランキングの内トータルリフトによるランキングは、世界と地域ランキングを設ける	日本では設けない
	チームイベントに出た場合は、世界並びに地域ランキングを認める。	日本では設けない
	mixed team eventに出た場合は世界並びに地域ランキングに入る	日本では設けない
	ハイブリッド競技会では世界ランキングを認める	日本では設けない
30.3	ランキング記録が同じ場合は、競技会の日付の早いものが上位となる。	今までは体重を考慮していたが、今後は、競技会の日付のみ考慮する
	更に同じ場合は、ラウンドの早い方の選手が上位に行く	WPPO通り
	更に同じ場合は成功試技の多いものが上位に行く	WPPO通り